



北斗句会

令和四年一月定例会（五日）

兼題

「初」「餅」

五十音順

特選

石田きよし選

ひいふうみい天神様の梅早し

大崎石州

餅をつく相の手婆の腕まくり

大森康正

寿ぎのはがきにさえも雪の愚痴

竹内雲泉

二人ただ片言かはす除夜の鐘

田中資凡

土に生き土に生かさる初昔

長池豆陽

モノクロの記憶の底に越後獅子

藤田紀潮

餅喰へば九人家族の彼の田舎

宮下ひかる

老妻とあと幾年や雑煮餅

森田光彦

寒波来て入日ひとときは輝けり

山縣秀雄

餅つきや老人クラブ青年部

吉岡誠山



もの言はず膨らむ餅や妻の留守

石田きよし